

岩手・宮城内陸地震の速報

H20.6.16(月)
サンコーコンサルタント(株)

◇ 岩手・宮城内陸地震の概要

2008年6月14日8時43分ごろ、岩手県内陸南部を震源とするM7.2(気象庁速報値)の地震が発生しました。この地震により、岩手県奥州市と宮城県栗原市で震度6強、宮城県大崎市で震度6弱を観測したほか、北海道から関東・中部地方にかけて震度5強から震度1を観測しました。

震源の深さは約8kmで、発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型です。

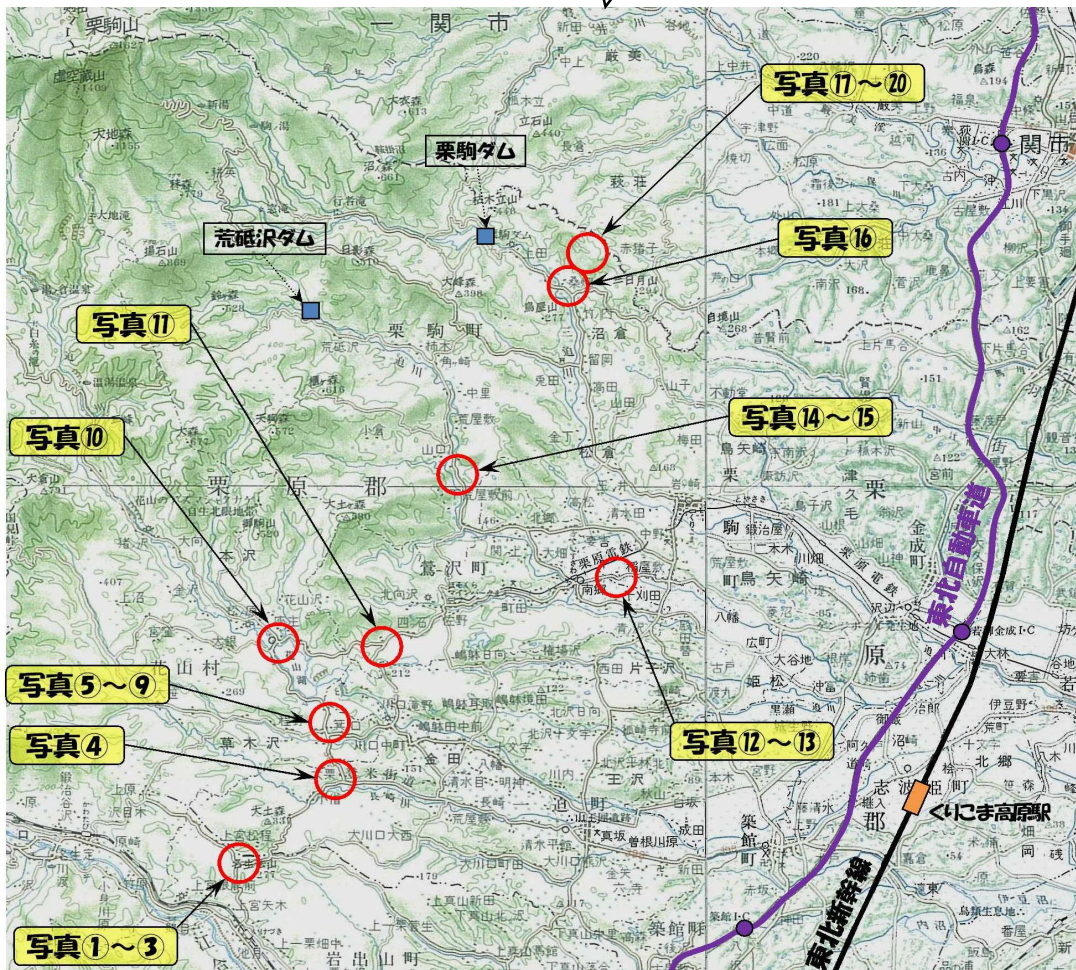
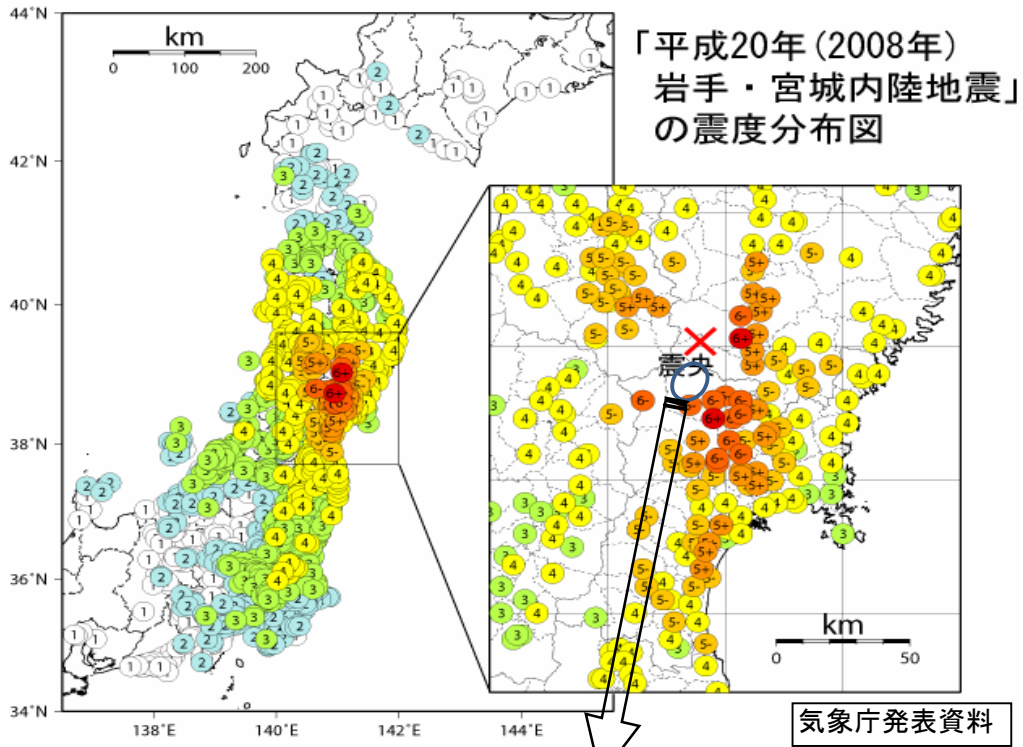
◇ 被災状況の特徴(踏査箇所についての所見)

- ・山地部・丘陵部で被害が集中しており、低地部(平野)での被災は外見上ほとんど見られない。
- ・市街地で、液状化による人孔・ボックス等の浮上がりは認められない。
- ・墓石の転倒は、意外に少ない。
- ・家財の転倒は、個々の家屋によってまちまち
- ・主な被災パターン

- | | |
|--|---------------|
| 1) 高角な割れ目が発達した岩盤がブロック状に崩落 | 写真①～② |
| 2) 橋台背面の沈下・陥没 | 写真③, ⑬ |
| 3) 腹付け盛土の路面変状(クラック・陥没) | 写真④ |
| 4) 山間部の沢部で路面変状(クラック・陥没) | 写真⑤～⑦ |
| 5) 半固結状の凝灰岩・砂岩からなる基盤が崩壊・すべり破壊
(細粒の火山砕屑物を多く含む) | 写真⑫, ⑭～⑮, ⑰～⑱ |

◇ 踏査地点

現時点では、テレビや新聞で報道されているような大規模な崩壊部に立ち入ることができません。そこで、震央付近で震度の大きかった宮城県栗原市付近における被災状況を確認してきました。



国土地理院20万分の1地形図に加筆使用